

(10)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

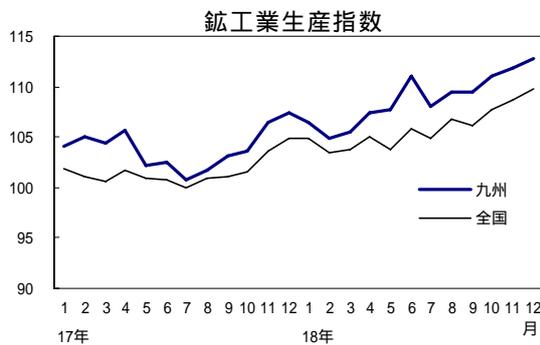
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 11 月）	今回（平成 19 年 2 月）	
個人消費	持ち直している	おおむね横ばい	
住宅建設	減少	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

電子部品・デバイスは、デジタル家電、ゲーム機、車載向けのICが引き続き好調なことから、堅調に推移している。輸送機械は、北米やヨーロッパ向けの普通自動車の輸出が引き続き好調であり、また国内向けでは軽自動車の新型車が好調なことから、増加している。一般機械は、海外向けの半導体製造装置や大型ボイラーなどが好調なことから増加している。食料品・たばこは、発泡酒、ビールが不調だったもの、主力の焼酎が好調だったことから全体では堅調に推移している。化学は、カプロラクタムやポリプロピレンといった汎用プラスチック樹脂や自動車向けの合成樹脂の需要が堅調なことから増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電子部品・デバイス	14.9	8.1	0.8	2.1	10.4
輸送機械	11.7	0.4	5.3	5.7	27.7
一般機械	11.0	0.3	10.4	14.4	15.6
食料品・たばこ	10.8	7.6	0.6	0.6	1.0
化学	8.5	5.4	0.6	2.7	7.3
鉱工業	100.0	0.2	2.7	2.8	3.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10~12月期は速報値。

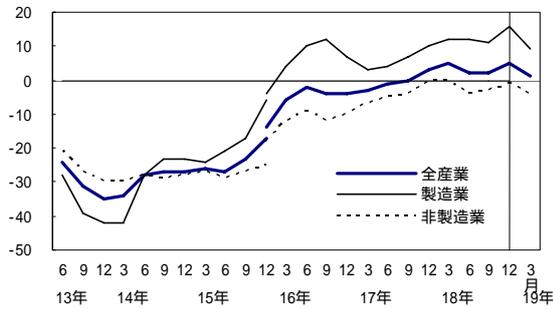
(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

2. 平成18年12月の九州は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

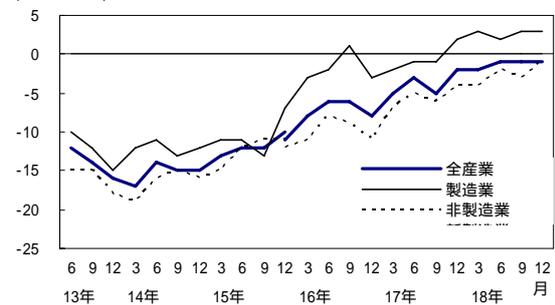
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



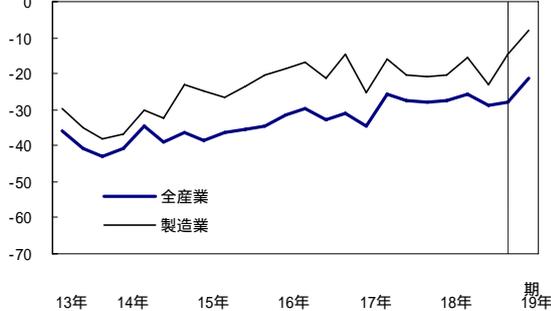
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年3月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「リードフレーム、コネクター関連、その他の電子部品の金型に関しては、年始からやや動きが鈍ってくるのではないかと言われていたが、年が変わっても状況は変わらず、忙しい状況が続いている(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

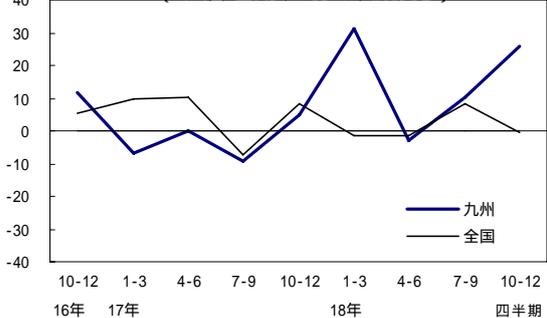
(3) 18年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	6.1	2.8(0.5)
製造業	17.1	12.0(0.6)
非製造業	0.8	4.1(0.4)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

(%) 建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

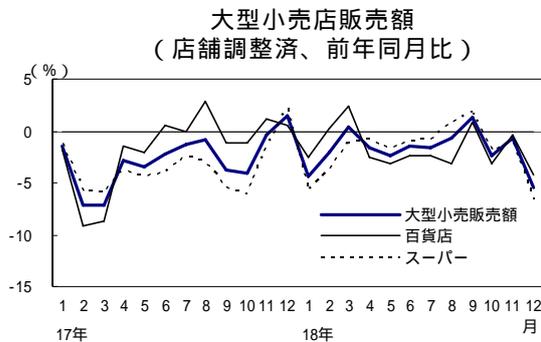
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、物産展等の催事効果から食料品に動きがあったものの、気温が高めに推移したことから衣料品が不調で、全体としては前年を下回った。11月は、歳暮ギフトの早期受注や催事の好調さなどから飲食料品が前年を上回り、また化粧品や腕時計といったその他商品にも動きがみられたものの、月後半に気温が高めに推移したことから衣料品の動きが鈍かったため、全体としては前年を下回った。12月は、化粧品や文具等その他に動きがみられたものの、暖冬の影響により冬物衣料が動かず、また歳暮ギフト需要が前月に前倒しされたことで飲食料品の動きが鈍かったことから、全体としては前年を下回った。なお、九州百貨店協会によると、九州地区の1月の売上高は、前年同月比で0.3%の減となっている。

スーパーでは、主力の野菜、精肉、鮮魚、果物といった飲食料品に動きがみられたものの、衣料品が、冬物衣料や防寒用品を中心に動きが鈍く、全体としては前年を下回った。

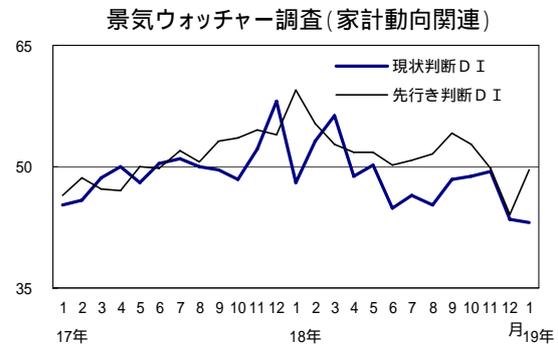
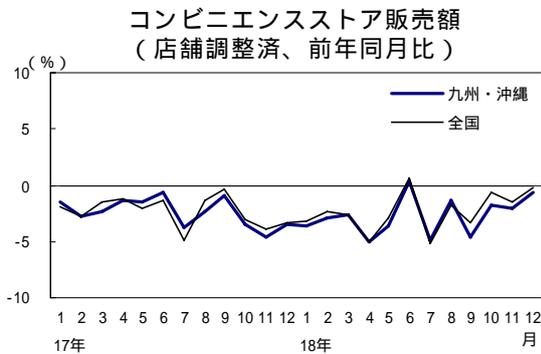
景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「正月の来客数は昨年より多く、昨年より増やした福袋も販売開始2時間で完売した。客の勢いを感じたがセール売上が悪く、結局昨年並みの売上で終わった(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同月比、%)			
	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	2.1	1.8	0.4	2.8
百貨店	0.0	2.7	1.7	2.8
スーパー	3.7	1.2	0.5	2.8
コンビニ	3.1	2.8	3.6	1.5
景気ウォッチャー	52.5	48.0	46.7	47.2

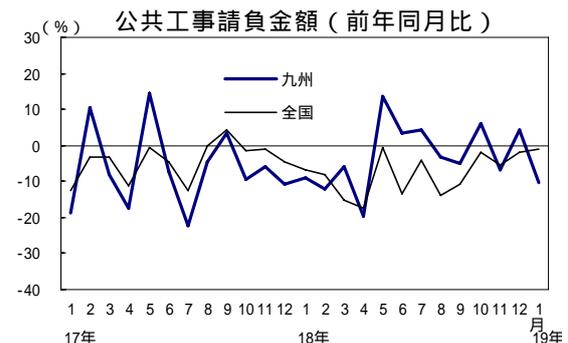
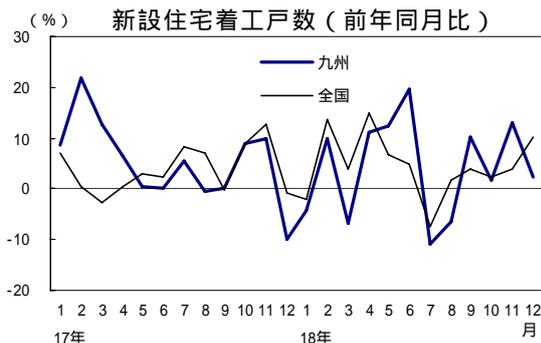
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
九州・沖縄地区。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、給与が前年を下回ったものの、貸家、分譲が上回ったことから全体では増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

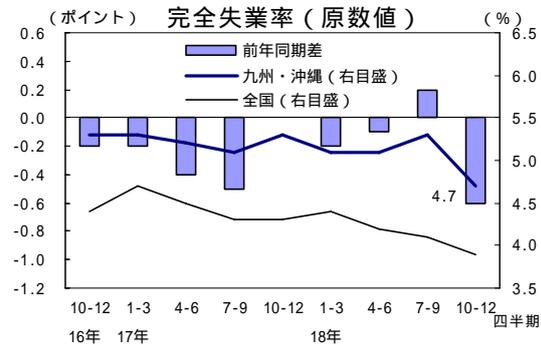
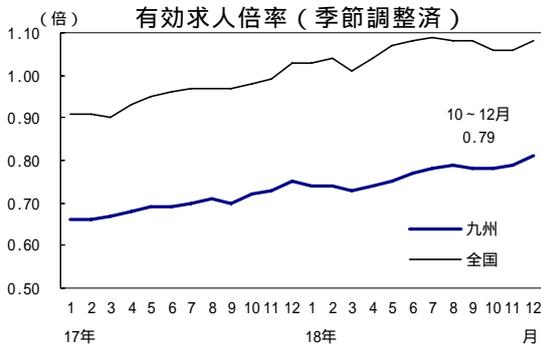


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

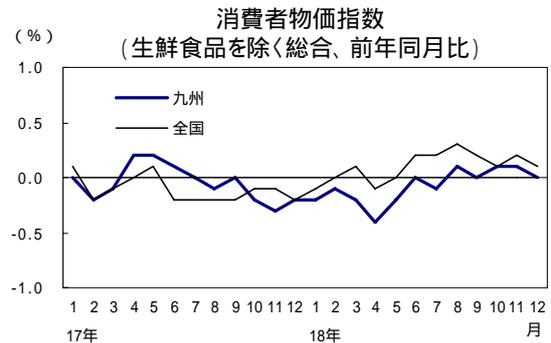
「2008年3月卒業予定者への企業の求人意欲が高まっている。人事担当者からも、企業業績の維持・拡大のために人材確保に懸命な様子が見え始める（学校[大学]）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	19年1月
倒産件数	259	286	269	281	85
（前年比）	5.8	9.2	0.4	18.6	10.4
負債総額	1259	1020	483	1038	222
（前年比）	44.3	44.7	57.9	25.7	68.2



景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・県外客が土産などプレー代以外の物を買うようになり客単価が大分上がった。地元客はレストランで若干高めの物を注文するようになり、客単価が少し上がった（ゴルフ場）

<先行き>

- ・景気回復が浸透し始めており、リース需要も現状の上向き基調にて推移する（その他サービス業[物品リース]）

景気ウォッチャー調査（合計）

